一般国道２３号　中勢道路

埋蔵文化財発掘調査概報２５

（平成２４・２５年度調査）

２０１５．２

三重県埋蔵文化財センター

例　　言

1　本書は、三重県が国土交通省中部地方整備局から委託を受けた一般国道２３号中勢道路建設予定地にかかる平成２４・２５年度の埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。

2　調査にかかる費用は、国土交通省中部地方整備局の負担による。

3　調査の体制は下記のとおりである。

・調査主体　三重県教育委員会

・調査担当　三重県埋蔵文化財センター

調査研究２課

課　　長　　田中久生

主　　幹　　竹内和昭（２４年度）　穂積裕昌（２５年度）

主　　査　　岩脇成人　　山中由紀子

室内整理員　　黒川敬子　　太田浩子　　森川絹代

北岡佳代子　山口香代

・土工作業受託機関　株式会社四門（森ヶ坪遺跡第２次調査）

橋本技術株式会社（小塚遺跡・石垣遺跡第１次調査）

西武緑化有限会社（森ヶ坪遺跡・東谷遺跡第１次調査）

橋本技術株式会社（大釜南古墳第１次調査）

4　遺跡の調査に際しては、山田昌久氏（首都大学東京　都市教養学部教授）、小山田宏一氏（大阪府立狭山池博物館職員）にご指導とご助言を賜った。記して感謝の意を表したい。

5　本書で用いた座標は、世界測地系による測量法の第Ⅵ座標系を基準とし、方位は座標北を示す。

6　本書では、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』２２版（日本色研事業株式会社　１９９９年）を使用した。

7　本書に用いた遺構表示略記号は、以下の通りである。

ＳＤ：溝　　ＳＺ：井泉・空閑地　　ＳＲ：自然流路

本文目次

Ⅰ　前言 ……（長谷川）…… 1
Ⅱ　森ヶ坪遺跡（第２次）……（原田）…… 9
Ⅲ　小塚遺跡（第１次）……（田中）…… 20
Ⅳ　石垣遺跡（第１次）……（田中）…… 21
Ⅴ　森ヶ坪遺跡（第１次）……（原田）…… 22
Ⅵ　東谷遺跡（第１次）……（原田）…… 23
Ⅶ　大釜南古墳（第１次）……（田中）…… 24

挿図目次

第１図　中勢バイパス路線内遺跡位置図 …… 3
第２図　中勢バイパス（12工区付近）遺跡位置図 …… 4
第３図　中勢バイパス（４工区付近）遺跡位置図 …… 5
第４図　中勢バイパス（７工区付近）遺跡位置図 …… 5
第５図　森ヶ坪遺跡（第２次）遺構全体図 …… 15～16
第６図　森ヶ坪遺跡（第２次）井堰平面図 …… 17
第７図　森ヶ坪遺跡（第２次）出土遺物実測図１ …… 18
第８図　森ヶ坪遺跡（第２次）出土遺物実測図２ …… 19
第９図　小塚遺跡（第１次）調査区位置図 …… 20
第10図　石垣遺跡（第１次）調査区位置図 …… 21
第11図　森ヶ坪遺跡（第１次）出土遺物実測図及び調査区平面図 …… 22
第12図　東谷遺跡（第１次）調査区平面図及び出土遺物実測図 …… 23
第13図　大釜南古墳（第１次）調査区位置図 …… 24

挿表目次

第１表　平成24年度中勢バイパス発掘調査遺跡一覧 …… 2
第２表　平成25年度中勢バイパス発掘調査遺跡一覧 …… 2
第３表　中勢バイパス発掘調査成果一覧 …… 6～8

写真目次

森ヶ坪遺跡
写真１　井堰全景 …… 9
写真２　井堰作業風景 …… 10
写真３　井堰西部近接　縦杭列 …… 11
写真４　井堰中央部近接　支保材 …… 11
写真５　ＳＲ２遺物出土状況 …… 12
写真６　井泉 …… 13
写真７　井堰全景 …… 15～16
写真８　井堰支保材固定状況 …… 15～16
写真９　ＳＤ１及び井堰出土木製品 …… 15～16
写真10　ＳＲ２流木堆積状況 …… 15～16
写真11　ＳＺ１４全景 …… 15～16
写真12　ＳＺ１７全景 …… 15～16
写真13　ＳＤ２０～２３ …… 15～16
小塚遺跡
写真14　Ａトレンチ …… 20
石垣遺跡
写真15　Ａトレンチ …… 21
写真16　Ｆトレンチ …… 21
森ヶ坪遺跡
写真17　Ｄ－１トレンチ溝部分土層 …… 22
東谷遺跡
写真18　Ｂトレンチ土層 …… 23
写真19　Ｅトレンチ …… 23
大釜南古墳
写真20　トレンチ２ …… 24
写真21　トレンチ５ …… 24
写真22　トレンチ４ …… 24

Ⅰ　前　言

１　中勢バイパスと埋蔵文化財保護

中勢バイパスは、三重県中勢地域の道路網を充実させるとともに、交通緩和とバイパス周辺の適切な土地利用を図り、地域の経済発展に寄与するために、一般国道２３号のバイパスとして計画された鈴鹿市北玉垣町から松阪市小津町までの延長３３．８㎞の道路である。当事業地内における埋蔵文化財の保護取り扱いについての協議は昭和５８年から行われているが、その詳細については各概報に記載されているので参照されたい。

２　平成２４・２５年度の現地調査

平成２４年度

埋蔵文化財発掘調査業務の委託契約は、国土交通省中部地方整備局長と三重県知事との間で７月２日に締結した。契約期間は平成２４年７月２日～平成２５年３月３１日である。

平成２４年度の調査工程や具体的方法について、９月２５日に国土交通省三重河川国道事務所と三重県埋蔵文化財センターで協議を行った。その後、次年度の調査にむけて、用地取得状況や調査計画についての協議を１月に行った。

現地調査としては、平成２４年７月に にんごう５号墳の第２次調査、平成２４年８月から平成２５年２月に にんごう１～４・７号墳の第２次調査、平成２４年８月から平成２４年１１月に森ヶ坪遺跡・東谷遺跡の第１次調査、平成２４年１２月に小塚遺跡・石垣遺跡の第１次調査をそれぞれ行った。

森ヶ坪遺跡は、調査対象範囲４６，５００㎡、調査面積２，３２０㎡である。今回の調査で、１１，８００㎡を二次調査の対象範囲とした。

東谷遺跡は、調査対象範囲１１，０００㎡、調査面積６４０㎡である。今回の調査では遺構は確認されず、以後の調査は不要と判断した。

小塚遺跡は、調査対象範囲３，０００㎡、調査面積２４０㎡である。今回の調査で、７００㎡が二次調査必要と判断した。６５０㎡の未調査範囲が残る。

石垣遺跡は、調査対象範囲１１，０００㎡、調査面積６６０㎡である。今回の調査で、３，３００㎡が二次調査必要と判断した。３，０３０㎡の未調査範囲が残る。

なお、２４年度調査した にんごう１～５・７号墳、東谷遺跡の当事業に関わる現地調査は、２４年度をもって終了した。

平成２５年度

埋蔵文化財発掘調査業務の委託契約は、国土交通省中部地方整備局長と三重県知事との間で４月１日に締結した。契約期間は平成２５年４月１日～平成２６年３月３１日である。

平成２５年度の調査工程や具体的方法について、４月９日に国土交通省三重河川国道事務所と三重県埋蔵文化財センターで協議を行った。その後、同様の協議を７月にも行い、発掘調査業務の円滑な推進を図った。また、次年度の調査にむけて、用地取得状況や調査計画についての協議を１１月に行った。

現地調査としては、平成２５年５月から平成２６年２月に森ヶ坪遺跡の第２次調査、平成２５年１２月に大釜南古墳の第１次調査をそれぞれ行った。

森ヶ坪遺跡は、調査対象範囲のうち、平成２４年度の調査結果をもとに６，８９７㎡の第２次調査を行った。

大釜南古墳は、調査対象範囲４，５００㎡、調査面積２９４㎡である。今回の調査では遺構・遺物は確認されず、以後の調査は不要と判断した。

なお、２５年度調査した大釜南古墳の当事業に関わる現地調査は、２５年度をもって終了した。

３　平成２４・２５年度の整理作業と報告書作成

過年度に現地調査を実施した筋違遺跡、相川西方遺跡の遺物実測、自然科学分析、写真撮影、調査現場の図面・写真整理など、報告書作成に向け資料整理を鋭意行った。また２５年度には、『筋違遺跡』、『にんごう遺跡・にんごう古墳群』の報告書を刊行した。そのため、本書には『にんごう遺跡・にんごう古墳群』の調査概要は収録していない。

4　普及公開

発掘調査に伴う公開普及活動としては、にんごう古墳群の地元説明会を平成２５年３月２３日に実施した。約１７人の参加者があり、検出遺構についての解説や出土遺物の展示紹介などを行った。参加者からは多くの質問がよせられ、熱心に説明を聞いていただいた。

森ヶ坪遺跡においては、平成２５年８月２８日、三重河川国道事務所主催の県内の小学生１５人を対象とした現地学習及び体験発掘が行われた。また、現地説明会を平成２５年１０月２０日に実施し、荒天の中、約８０人の参加者があり、調査区内での見学・説明、出土遺物の展示紹介などを行った。

平成２４年１１月には、平成２３年度に現地調査を行った相川西方遺跡、本宮遺跡、城ノ越遺跡、東山神遺跡の調査結果を記載した『一般国道２３号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報２４』を発行した。

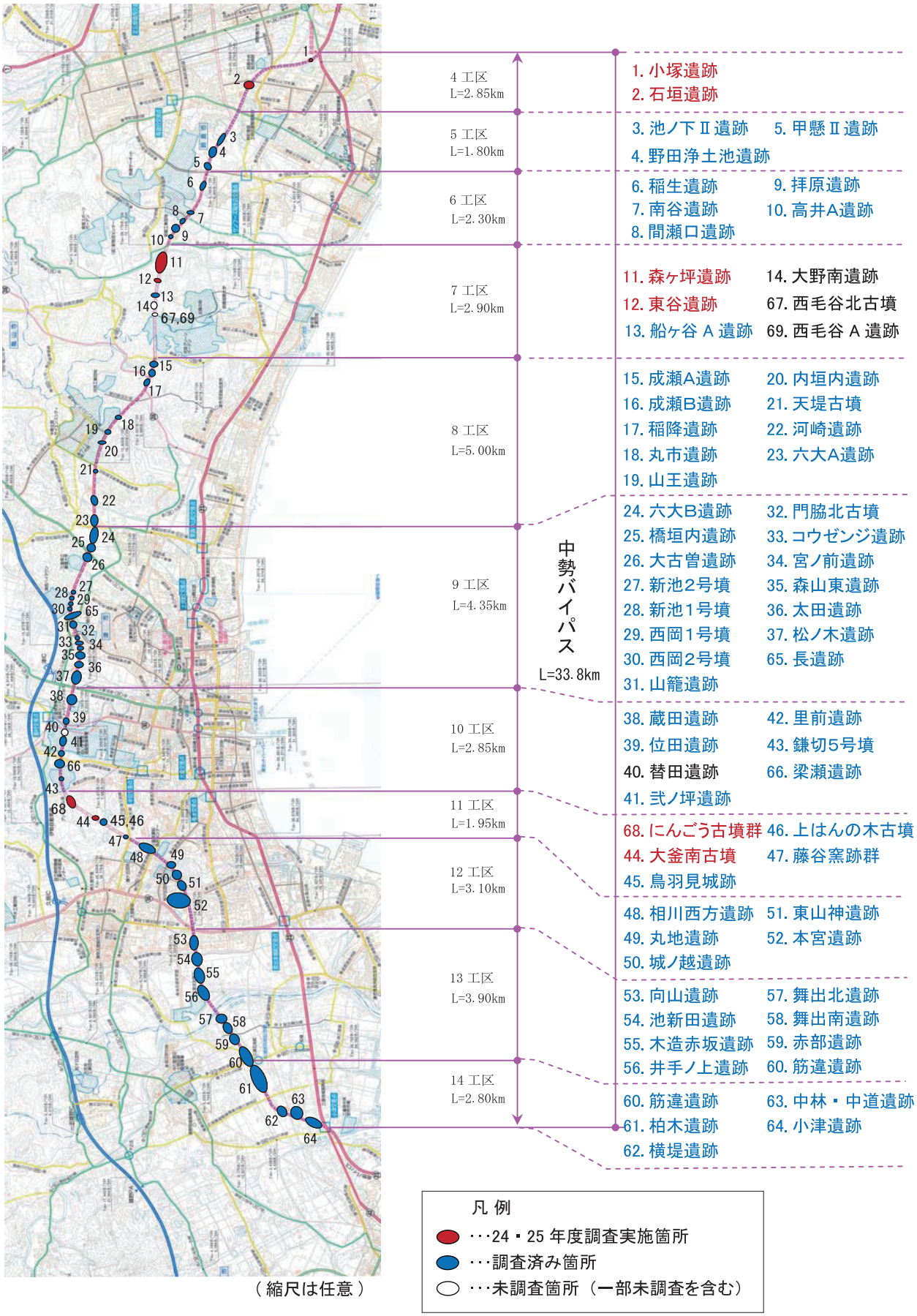
また、平成２５年３月には、にんごう古墳群の調査成果を特集した『中勢道路調査ニュース』№５８を、平成２５年１０月には、森ヶ坪遺跡の調査結果をまとめた『中勢道路調査ニュース』№５９を発行し、現地説明会等で利用した。

工区	番号	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	担当者
4	1	小塚遺跡	鈴鹿市北玉垣町	240 ㎡	平成 24 年 12 月 7 日 ～ 平成 24 年 12 月 13 日	岩脇 成人 竹内 和昭
	2	石垣遺跡	鈴鹿市末広町	660 ㎡	平成 24 年 12 月 17 日 ～ 平成 24 年 12 月 28 日	岩脇 成人 竹内 和昭
7	11	森ヶ坪遺跡	鈴鹿市御薗町、 越知町	2, 320 ㎡	平成 24 年 8 月 20 日 ～ 平成 24 年 10 月 29 日	竹内 和昭 岩脇 成人
	12	東谷遺跡	鈴鹿市越知町	640 ㎡	平成 24 年 8 月 20 日 ～ 平成 24 年 10 月 29 日	竹内 和昭 岩脇 成人
10	68	にんごう１ ～４・７号墳	津市神戸	2, 689 ㎡	平成 24 年 8 月 16 日 ～ 平成 25 年 2 月 22 日	山中 由紀子
	68	にんごう ５号墳	津市神戸	230 ㎡	平成 24 年 7 月 9 日 ～ 平成 24 年 7 月 25 日	山中 由紀子
合　計				6, 779 ㎡		

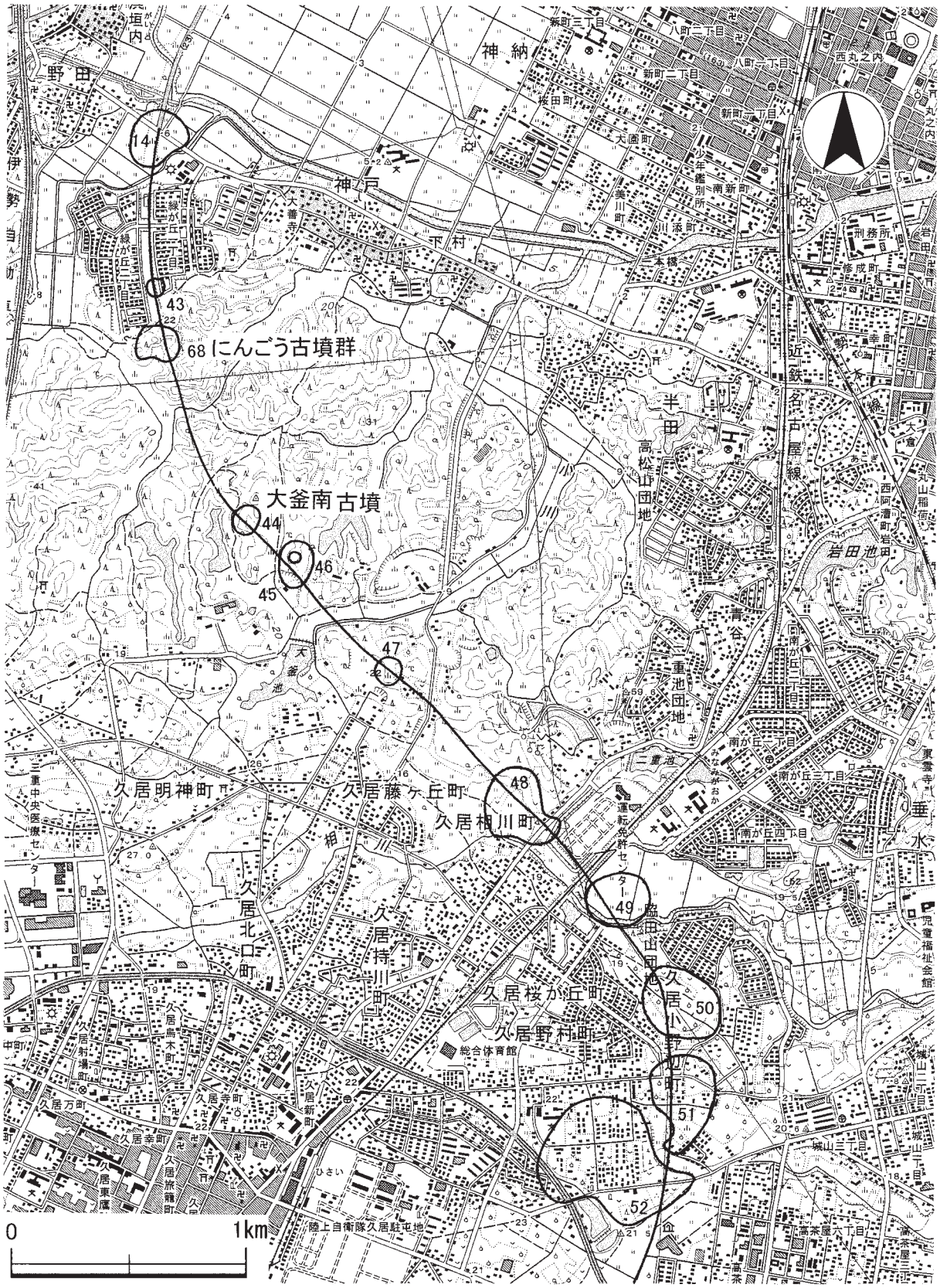
第１表　平成24年度中勢バイパス発掘調査遺跡一覧

工区	番号	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	担当者
7	11	森ヶ坪遺跡	鈴鹿市御薗町、 越知町	6, 897 ㎡	平成 25 年 5 月 24 日 ～ 平成 26 年 2 月 13 日	穂積 裕昌 岩脇 成人
11	44	大釜南古墳	津市大字神戸	294 ㎡	平成 25 年 12 月 20 日 ～ 平成 25 年 12 月 24 日	田中 久生
合　計				7, 191 ㎡		

第２表　平成25年度中勢バイパス発掘調査遺跡一覧

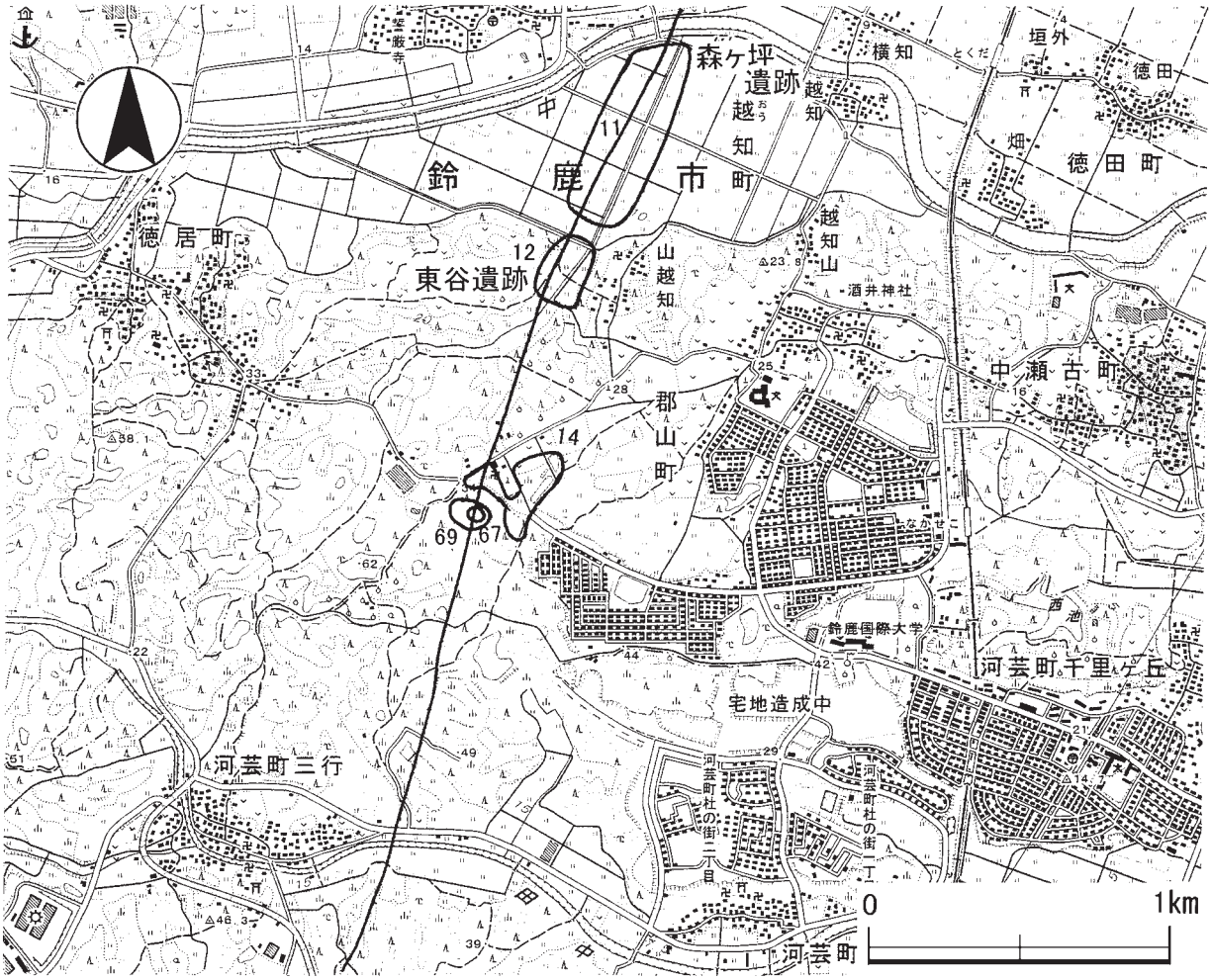


第１図　中勢バイパス路線内遺跡位置図



第２図　中勢バイパス（12工区付近）遺跡位置図（1:25,000）（国土地理院 1:25,000『津西部』『津東部』）

第３図　中勢バイパス（４工区付近）遺跡位置図（1:25,000）（国土地理院 1:25,000『鈴鹿』）



第４図　中勢バイパス（７工区付近）遺跡位置図（1:25,000）（国土地理院 1:25,000『白子』）

工区		遺　跡　名	所在地	対象面積（㎡）	調査面積（㎡）	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	
4工区	1	小塚遺跡	鈴鹿市北玉垣町	3,000	240																									240		
					0																											
	2	石垣遺跡	鈴鹿市末広町	11,000	660																									660		
					0																											
小　計				14,000	900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	900	0	
					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5工区	3	池ノ下Ⅱ遺跡 旧：池ノ下遺跡	鈴鹿市稲生町	17,000	1,300																1,300											※1
					0																											
	4	野田遺跡	鈴鹿市稲生町	12,600	970																970											※1
					0																											
	5	甲懸Ⅱ遺跡 旧：甲懸遺跡	鈴鹿市稲生町	6,200	1,150																1,150											※1
					2,650																	2,650										※1
	—	浄土池遺跡	鈴鹿市稲生町	—	330																330											※1
					0																											
小　計				35,800	3,750	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,750	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
					2,650	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,650	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
6工区	6	稲生遺跡 旧：稲生Ⅰ-4号窯	鈴鹿市稲生町	3,300	185				185																							
					2,100					2,100																						
	7	南谷遺跡	鈴鹿市稲生町	4,000	176				176																							
					1,300					1,300																						
	8	間瀬口遺跡	鈴鹿市徳田町	7,000	96					96																						
					0																											
	9	拝原遺跡	鈴鹿市御園町	7,000	64					64																						
					0																											
	10	高井Ａ遺跡	鈴鹿市徳田町	4,000	96					96																						
					4,550								4,100	450																		
小　計				25,300	617	0	0	0	361	256	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
					7,950	0	0	0	0	3,400	0	0	4,100	450	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
7工区	11	森ヶ坪遺跡	鈴鹿市御薗町 越知町	27,000	2,240																									2,320		
					6,897																										6,897	
	12	東谷遺跡	鈴鹿市越知町	11,000	640																									640		
					0																											
小　計				38,000	2,880	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,960	0	
					6,897	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,897	
8—1工区	15	成瀬Ａ遺跡	津市河芸町三行	12,000	600																			600								
					0																											
	16	成瀬Ｂ遺跡	津市河芸町三行	8,700	140																			140								
					0																											
	17	稲降遺跡	津市河芸町三行	2,500	560																			260		300						
					0																											
小　計				23,200	1,300	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000	0	300	0	0	0	0	0	
					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
8—2工区	18	丸市遺跡	津市河芸町 南黒田	1,600	128						128																					
					0																											
	19	山王遺跡	津市河芸町 南黒田	3,700	128						128																					
					0																											
	20	内垣内遺跡	津市河芸町 南黒田	4,200	128						128																					
					0																											
	21	天堤古墳	津市大里睦合町	900	55						55																					
					0																											
	22	河崎遺跡	津市大里睦合町	10,600	256						256																					
					0																											
	23	六大Ａ遺跡	津市大里窪田町	17,800	448						352	96																				
					13,220							8,830	4,130	260																		
小　計				38,800	1,143	0	0	0	0	0	1,047	96	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
					13,220	0	0	0	0	0	0	8,830	4,130	260	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

第３表－１　中勢バイパス発掘調査成果一覧

工区		遺　跡　名	所在地	対象面積（㎡）	調査面積（㎡）	S63	H元	H２	H３	H４	H５	H６	H７	H８	H９	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
9工区	24	六大Ｂ遺跡	津市大里窪田町	26,235	444	416				28																					
					26,235			17,525	3,420	3,350	1,270	670																			
	25	橋垣内遺跡	津市大里窪田町	12,000	176	176																									
					12,000		7,000	4,925	75																						
	26	大古曽遺跡	津市一身田	12,435	692	352		300		40																					
					12,435				5,160	240	7,035																				
	27	新池2号墳	津市一身田	—	198									198																	
					0																										
	28	新池1号墳	津市河辺町	—	20	20																									
					0																										
	29	西岡1号墳	津市河辺町	2,000	70				70																						
					2,000					2,000																					
	30	西岡2号墳	津市河辺町	—	30				30																						
					0																										
	31	山籠遺跡	津市河辺町	1,100	208	208																									
					1,100		1,100																								
	32	門脇北古墳	津市河辺町	1,100	0																										
					1,100		1,100																								
	33	コウゼンジ遺跡	津市河辺町	—	80	80																									
					0																										
	34	宮ノ前遺跡	津市長岡町	2,800	144	144																									
					2,800		2,700				100																				
	35	森山東遺跡	津市長岡町	5,230	240	240																									
					5,230	4,230	1,000																								
	36	太田遺跡	津市長岡町	3,320	469	469																									
					3,320	3,320																									
	37	松ノ木遺跡	津市安東町	7,800	144	144																									
					7,800		7,800																								
	65	長遺跡	津市河辺町	3,700	0																										
					3,700								3,700																		
小　計				77,720	2,915	2,249	0	300	100	68	0	0	0	198	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					77,720	7,550	20,700	22,450	8,655	5,590	8,405	670	3,700	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10工区	38	蔵田遺跡	津市納所町	12,800	1,356		608						748																		
					16,340							5,600	6,810	3,300			630														
	39	位田遺跡	津市北河路町	7,100	416		416																								
					5,260									4,600				660													※2
	40	替田遺跡	津市南河路	7,900	432		176							256																	
					10,830									6,620	4,210																
	41	弐ノ坪遺跡	津市野田	5,700	320		320																								
					5,100										5,100																
	42	里前遺跡	津市野田	3,000	256		160							96																	
					2,810											1,280						1,530									
	66	梁瀬遺跡	津市野田	—	1,152									474	678																
					3,620											3,620															
	43	鎌切５号墳	津市神戸	—		昭和59年津市教育委員会が発掘調査																									
	68	にんごう古墳群	津市神戸		0																										
					2,919																									2,919	
小　計				36,500	3,932	0	1,680	0	0	0	0	0	748	826	678	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					46,879	0	0	0	0	0	0	5,600	6,810	14,520	9,310	4,900	630	660	0	0	0	1,530	0	0	0	0	0	0	0	2,919	0

第３表－２　中勢バイパス発掘調査成果一覧

工区		遺跡名	所在地	対象面積(㎡)	調査面積(㎡)	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	
11工区	44	大釜南古墳	津市神戸	4,500	294																										294	
					0																											
	45	鳥羽見城跡	津市神戸	4,400	410																							410				
					0																											
	46	上はんの木古墳	津市神戸	1,600	190																							190				
					0																											
	47	藤谷窯跡群	津市半田	—	—	昭和50年津市教育委員会が発掘調査																										
小計				10,500	894	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	600	0	0	294	
					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
12工区	48	相川西方遺跡	津市久居相川町	18,000	1,940																					1,000		940				
					8,742																						3,472	3,000	2,270			
	49	丸地遺跡	津市垂水	7,100	560																						560					
					0																											
	50	城ノ越遺跡	津市久居小野辺町	16,300	1,430																						240	1,070	120			
					0																											
	51	東山神遺跡	津市久居小野辺町	13,300	1,210																							1,030	180			
					0																											
	52	本宮遺跡	津市久居野村町	11,300	1,600																						1,200	400				
					2,850																								2,850			
小計				66,000	6,740	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000	2,000	3,440	300	0	0	
					11,592	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,472	3,000	5,120	0	0	
13工区	53	向山遺跡	津市高茶屋小森町	28,000	1,780																		1,380	400								
					2,393																				2,393							
	54	池新田遺跡	津市木造町	16,300	554																	554										
					1,961																				1,961							
	55	木造赤坂遺跡 旧：赤坂遺跡	津市木造町	17,500	1,192																	1,192										
					24,370																		6,570	11,500	6,300							
	56	井手ノ上遺跡	津市木造町	12,500	800																	800										
					370																			370								
	57	舞出北遺跡 旧：舞出遺跡	松阪市舞出町	9,600	960											810		150														
					11,170												4,090	3,380				3,700										
	58	舞出南遺跡 旧：松垣内遺跡	松阪市舞出町	16,300	1,200											1,200																
					0																											
	59	赤部遺跡 旧：新屋庄遺跡	松阪市嬉野新屋庄町	16,800	1,190													1,190														※3
					16,820																6,300	7,000	3,520									※3
	60	筋違遺跡	松阪市嬉野新屋庄町	37,000	3,680													1,640				2,040										
					13,280														2,900				10,380									
小計				154,000	11,356	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,010	0	2,980	0	0	0	4,586	1,380	400	0	0	0	0	0	0	0	
					70,364	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,090	3,380	2,900	0	6,300	10,700	20,470	11,870	10,654	0	0	0	0	0	0	
14工区	60	筋違遺跡	松阪市嬉野新屋庄町	—	770													770														
					5,410														5,410													
	61	柏木遺跡	松阪市嬉野川北町	31,000	1,470													1,470														
					2,990															540	2,450											※3
	62	横堤遺跡	松阪市嬉野津屋城町	21,500	1,140													1,140														
					0																											
	63	中林・中道遺跡 旧：狭間遺跡	松阪市中道町	18,600	1,010													1,010														
					8,470														1,040	5,240	2,190											
	64	小津遺跡 旧：東浦遺跡	松阪市小津町	23,000	1,424													1,190		84	150											
					11,220														280	3,780	7,160											
小計				94,100	5,814	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,580	0	84	150	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
					28,090	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,730	9,560	11,800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計				613,920	42,241	2,249	1,680	300	461	324	1,047	96	748	1,024	678	2,010	0	8,560	0	84	3,900	4,586	1,380	1,400	0	1,300	2,000	4,040	300	3,860	294	
					265,362	7,550	20,700	22,450	8,655	8,990	8,405	15,100	18,740	15,230	9,310	4,900	4,720	4,040	9,630	9,560	18,100	14,880	20,470	11,870	10,654	0	3,472	3,000	5,120	2,919	6,897	

上段：一次調査面積、下段：第２次以降の調査面積　　アミカケについては、※１：鈴鹿市（教育委員会）実施　※２：津市教育委員会実施　※３：松阪市（嬉野町）教育委員会実施

第３表－３　中勢バイパス発掘調査成果一覧

Ⅱ　森ヶ坪遺跡（第２次）

森ヶ坪遺跡は、鈴鹿市御薗町、越知町に広がる遺跡である。遺跡は中ノ川南岸の沖積地に所在し、南側の丘陵には古代庵芸郡の中核的な遺跡である郡山遺跡群①をはじめ、旧伊勢国最大の須恵器生産窯跡群である徳居窯跡群②がある。また、ほ場整備以前の遺跡所在地は、条里制の区画が良好に残っており、弥永貞三氏らによる復元案が公表されている③。第２次調査実施前は古代から中世にかけての遺構の存在が予想された。

１　遺構と遺物

調査区は中勢道路の路線に合わせて南北に細長い形状を呈するが、農道や水路により３分割して調査した。ここでは便宜的に北側から北区・中区・南区と仮称する。以下、調査で確認した主だった遺構の概要を述べる。

（１）北区

ＳＤ１　調査区北西隅から南東隅へ延びる幅０．３ｍ、深さ４１㎝、長さ６２ｍ以上の直線的な溝である。遺構の重複関係からＳＤ３及びＳＤ６より古い。北区中央、ＳＤ１９との重複箇所付近で井堰を確認した。

埋土から弥生時代後期の土器（１～３）や弓とみられる木製品（４）などが出土した。４は縦方向に溝状の凹みをつけた棒状の木に５か所、樹皮で緊縛してあり、綴じ終わりを溝状の凹みにくぐらせて処理している。

井堰　北東側からのＳＤ１と西側からのＳＤ１９の流水を制御し、東側（ＳＤ１９）へ導水する機能があったとみられ、規模は東西１２ｍ・南北６ｍに及ぶ。向きはＳＤ１に対して直交方向、ＳＤ１９に対して約１５°南へ振れる。主要流路とみられるＳＤ１９からの流水に対して井堰を直交方向に組むことなく、若干角度をつけて流すことに主眼が置かれた井堰であったようだ。

構築方法としては、最初、流路内に堆積した砂層を利用して、縦杭を鋭角に東西方向に並ぶよう地山

写真１　井堰全景（東から）

写真２　井堰作業風景

粘土に打ち込み、横架材と土砂を挟んで再び縦杭列を打ち込む。これを繰り返して徐々に杭列を立ち上げている。そして、後方からは建築部材を転用したとみられる支保材で井堰全体を支えている。支保材の先端は二股に分かれていた。二股部分を杭で固定（写真８参照）することによって支保材が後方に押し出されるのを防いでいたとみられる。また、井堰の杭と杭の間には木葉や粗朶を充填し、漏水を防ぐ工夫も行われた。

なお、井堰に用いられた杭は最長３ｍを超え、いずれも先端は鉄斧による加工とみられる。井堰の形成時期をいつとみるかは現在検討中であり、杭のＡＭＳ法による理化学的な年代分析を実施する予定である。

井堰部分からは弥生土器（５～７）が出土したが、掲載可能な土器類は僅かである。

ＳＲ２　調査区の南側中央から北東側へ弧状に流れる幅０．４８ｍ、深さ８６㎝、長さ３４ｍ以上の自然流路である。ＳＤ１との合流部を覆うように木材が集中して出土した。調査では「木組遺構」として把握したが、打ち込まれた杭は複数あるものの、明確に構築された施設と是認しうるほどの規則性はなく、自然の流木が長さ約４．５ｍにわたって溜まったような状況を呈する。また、下層には流路の法面にそのまま入っていく流木が多数存在し、流路形成以前から存在した埋没木が流路によって現出した様相を呈する。流路の法面から弥生時代中期の土器が出土した（写真５参照）ほか、ヒョウタンや農具未成品とみられる木製遺物も少量出土している。

なお、中区の最北で確認された井泉ＳＺ１７は、湧き出た水が北へ流れていくが、ＳＲ２はその延長部に位置している。このことから、ＳＲ２はＳＺ１７の湧水を受けた流路であったとみられる。

ＳＤ３　後述のＳＤ１９が完全に埋没した後、ほぼ同位置に形成された幅０．３ｍ、深さ１３㎝、長さ４９ｍ以上の浅い溝で、調査区を東西に走る。埋土から土師器壷、同高杯、須恵器杯身、同杯蓋など（１３～１８）が出土した。須恵器は７世紀頃の所

産とみられる。

ＳＤ６　幅０．９ｍ、深さ８㎝の弧状を呈した溝である。遺構の重複関係からＳＤ１よりも新しい。全体形状は不明であるが、調査区内で遺構東部を確認しており、鍵穴状に溝が周る形状は区画溝的な様相を呈する。

埋土から、須恵器杯身、土師器甕などが出土した。須恵器は６世紀末頃の所産とみられる。

写真３　井堰西部近接　縦杭列（北東から）

写真４　井堰中央部近接　支保材（西から）

写真５　ＳＲ２遺物出土状況（報10、西から）

ＳＤ７　調査区の北西隅で確認した幅０．６ｍ、深さ１６㎝、長さ８ｍ以上の細い溝である。

ＳＤ１０　幅０．７ｍ、深さ１２㎝の溝で、西側はＳＤ６と重複する。ＳＤ１もしくはＳＤ６が増水した際に形成されたとみられる。

ＳＤ１９　調査区を東西に走る溝で、前述のＳＤ３とほぼ同じ位置にあることから、当初は「ＳＤ３下層」としていた。しかし、本溝が完全埋没した後にＳＤ３が形成されていることが判明したため、ＳＤ３から独立させて下層部をＳＤ１９とした。ただし、溝の東側（概ねＳＤ１との交叉部より東側）は両者を区別せずに掘削したため、上層（ＳＤ３）での遺構ラインの把握を行っていない（西側は上層ＳＤ３の実測図作成を行った後、ＳＤ１９を掘削している）。埋土から少量ではあるが弥生土器が出土している。

（２）中区

ＳＤ１１　東南側から北西側に向かって流れ、後述のＳＤ１５に流れ込む幅１．４ｍ、深さ３０㎝、長さ１９ｍ以上の溝である。

埋土から弥生土器（２１～２５）が出土している。形状から、弥生時代後期である。

ＳＺ１４　西・南・東を弧状に周るＳＤ１５に囲まれ、北側に所在する井泉ＳＺ１７に至る空閑地をＳＺ１４として把握した。概ね東西４１ｍ×南北４７ｍの略楕円形を呈する。中区南側は微高地となっており、北半部はＳＤ１５で一旦低くなり、後述する井泉ＳＺ１７に向かって再び緩やかに高くなっていく。ＳＺ１４とＳＤ１５は埋土としては一体のものであり、ＳＺ１４はＳＤ１５が増水した際にオーバーフローする部分に相当する。調査開始当初、全体をＳＺ１４として把握していたが、調査の過程で溝が確認できたため、溝部分をＳＤ１５として扱った。ＳＺ１４内は明確なピット等の掘り込みが認められず、また埋土が粘性の強い水田土壌様にも見えたため、調査区西壁（ＳＺ１４・ＳＤ１５及びＳＤ１８相当部）でプラント・オパール分析と植物珪酸体分析を実施した。その結果、本遺構群の検出面付

写真６　井泉（北西から）

近でもイネのプラント・オパールは若干認められたが、積極的に水田が所在したと確定しうるほどの量的安定にはほど遠く、プラント・オパールは流入によるもので遺構形成時期に水田はなかったと判断された[④]。なお、遺構検出の過程で、量的には少ないものの弥生土器（２６～３１）が出土している。

ＳＤ１５　前述のように、幅０．３ｍ、深さ５６㎝で弧状を呈する。北東部ではＳＺ１７に近接するが、ＳＺ１７には直接繋がらない。北東側は現代工作物が存在したため調査できなかったが、北区南壁東端部で南側へ落ち込んでいくことを確認したので、これがＳＤ１５の北側肩部に相当するとみられる。ＳＤ１１と繋がる付近では陸橋とみられる高まりがあり、また粘性の強い埋土であることから、本遺構に早い流れはなく、比較的滞水性が高い溝だったと推定される。埋土からは、少量ながら弥生時代中期の土器（３２）が出土したほか、１点建築部材も出土した。

ＳＺ１７　中区の最北端に所在する土坑状の掘り込みである。調査時にも常に湧水していたことからも井泉であったと推定される。長径１１．３ｍ×短径７．８ｍの略楕円形を呈し、深さ７０㎝を測る。北側には幅２．３５ｍ、深さ７０㎝の溝があり、湧水はこの溝へ流れ出る。この溝は、北区のＳＲ２へ繋がるとみられ、ＳＲ２は本遺構を水源としていたと考えられる。埋土上層からは少量ながら弥生時代後期の土器（３３）が出土したほか、井泉全体からオニグルミ、イチイガシ、トチノキなどの種実が出土している[⑤]。

さて、井泉底部は、井泉の法面基部に２本の丸太材（Ｗ１、Ｗ２）が「ハ」字形に存在し、また１本の丸太材（Ｗ３）がその頂部を鍋蓋状に覆うように出土した。これら材のうち、Ｗ１・Ｗ３は井泉法面へそのまま入り込んでいくことから、井泉形成以前に存在した立木が土砂の堆積作用で埋没した木材（埋没木）であったとみられる。Ｗ２は井泉内で完結し、さらに人為的に切断した痕跡が認められるが、基本的に本材も埋没木であろう。これら３本の埋没木のうち、Ｗ３は井泉から湧き出た水を一旦貯める「ダム」の機能があり、湧水を直接受ける部分はその圧力により表面が抉れ、上部も一段低く抉り取られていた。なお、埋没木の理化学的な調査の結果、

樹種はＷ１がコナラ属アカガシ亜属、Ｗ２がトチノキ、Ｗ３がムクノキ、ＡＭＳ年代はそれぞれ２２００±２０年、２２４０±２０年、２１７０±２０年を倒伏年代としていることが判明した[⑥]。

ＳＤ１８　調査区際で検出したため詳細は不明であるが、西側から流れてきて調査区北西隅でＳＤ１５と合流する溝である。幅２．５ｍ、深さ３４㎝で、少なくとも調査範囲内では土器等の出土はなかった。

（３）南区

南区では、遺構検出時に詳細を把握できなかったが、調査を進める過程で４条の溝が相互に重複していることがわかった。遺構検出段階では、古墳時代前期のＳＤ２０及び弥生時代後期のＳＤ２１というふたつの溝の重複と把握したが、掘削の過程でＳＤ２１はさらに複数の溝の集合体であることが判明した。それぞれＳＤ２１ａ・ＳＤ２１ｂ・ＳＤ２１ｃと把握し、遺物注記等もそれに従っている。しかし、調査区を西側へ拡張した際、それらが必ずしも同一場所での重複でないことが判明した。そこで、本報告書以降、ＳＤ２１ａ～ｃについては、遺構番号を下記のように訂正し、報告する(注記等は変更せず)。

旧番号　　新番号

ＳＤ２１ａ⇒ＳＤ２１

ＳＤ２１ｂ⇒ＳＤ２２

ＳＤ２１ｃ⇒ＳＤ２３

以下、個別に概要をみていく。

ＳＤ２０　ＳＤ２１埋没後、ほぼその位置を踏襲しつつも幅・深さを減じて存在した溝で、幅２．２ｍ、深さ４６㎝を測る。調査区南西側から流れてきて、調査区内で屈曲し、東流していく。途中、東西２か所で杭列を確認した。

埋土からは、古墳時代前期を中心とした土師器類（３４～３８）や、未成品を含む木製農具（３９）、建築部材等の木製品が出土している。

ＳＤ２１　幅５ｍ、深さ７１㎝を測る溝である。本溝の埋没後、同じ場所を踏襲して形成されたＳＤ２０よりも幅・深さともに一回り大きい。

埋土からは弥生時代後期から古墳時代初頭の土器（４０～４５）と、農具未成品を中心とした木製品が若干量出土した。

ＳＤ２２　調査区西側から東側に向かって流れ、途中、やや蛇行気味に屈折して、流路方向を東北東側に向ける。幅６ｍ×深さ１１４㎝を測り、埋土からは弥生後期を中心とした土器（４６～４８）や若干の木製品が出土した。また、溝の西側で疎らながら杭が打ち込まれていた。ＳＤ２０で確認した杭列ほど集中性はなく、またその部分の流路幅の変化もないため設置意図はいまひとつ判然としないが、多くの杭が地山より相当深く打ち込まれていた。

ＳＤ２３　南区で検出された溝の中で最も形成時期が古い溝で、調査区西側から東側へ直線的に流れる。遺構上部が西半部はＳＤ２２と、東半部はＳＤ２０・２１と重複するため、下半部のみが残存する。溝断面の形状が逆台形状を呈し、推定幅１．５ｍ×深さ７１㎝を測る。埋土から弥生時代後期を中心とした土器（４９～５２）が出土したほか、最下層を掘削する過程で縄文時代後期の土器も出土した。縄文土器はあまりローリングを受けていなかったが、本流路形成以前、地山がまだ安定していない頃に溜まったものであろう。

２　今後の課題

調査実施前の想定とは異なり、弥生時代及び古墳時代の遺構が多く確認された。おそらく、後世の開発の影響を受けた結果、古代以降の遺構は削平され、より低い箇所に遺存していた古墳時代以前の遺構が確認できたのであろう。

今回の調査で、特に北区・中区の遺構は出土遺物が少なく、概ね弥生時代の範疇に収まるとみているが、それ以上の詳細時期を押さえられていないものがある（ＳＤ１及び井堰、ＳＲ２、ＳＤ１１、ＳＺ１４、ＳＤ１５、ＳＺ１７、ＳＤ１９）。

西から流れるＳＤ１９と北西から流れるＳＤ１、それらの水流を受けて東側へ流す井堰の一群、井泉ＳＺ１７と湧き出た水が流れるＳＲ２、井泉を囲む溝ＳＤ１５及び空閑地ＳＺ１４、ＳＤ１５に繋がるＳＤ１１の一群は、機能的にみて同一時期に存続していたと考えられる。それぞれの遺構群の関連性はどうだったのか。

また、堰の構築材である杭が多くを占めるが、数百点の木製品が出土した。木製品に関しては、樹種同定も行い、木材の供給システムにも触れられればと思う。

写真７（上）　井堰全景
（SD1・SD19 合流付近：東から）
北東からの SD1、西からの SD19 の流れを制御して、東へ導水する機能であったとみられる。

写真８（右）　井堰支保材固定状況
（南東から）

写真９（右）　SD１及び井堰出土木製品（縮尺不同）
４は弓、８・９は井堰の構築材となる杭である。杭はいずれも端部を鉄斧で加工し、８は加工部に鉄斧の刃こぼれ痕が認められる。

写真 10　SR2 流木堆積状況（西から）

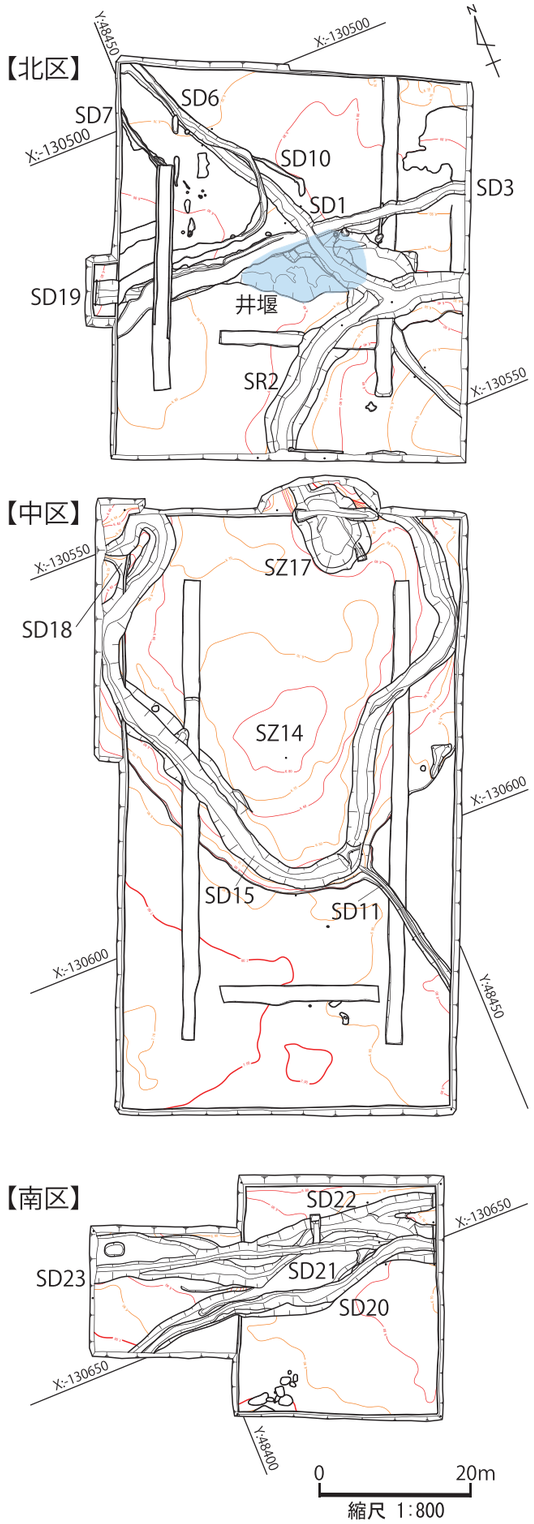


写真 11　SZ14 全景（南から）

写真 12　SZ17 全景（北東から）矢印は湧水の水流で抉れた箇所

写真 13　SD20 ～ 23（西から）

第５図　森ヶ坪遺跡（第２次）遺構全体図（1:800）

今後整理を進めるにあたり、理化学的な分析も加味したうえで、これらの課題を突き詰めていきたい。

註

①：鈴鹿市教育委員会、鈴鹿市遺跡調査会『鈴鹿市郡山町　郡山遺跡群発掘調査報告Ⅰ』昭和58年
中森成行「西高山Ａ・Ｂ遺跡」『三重県史』資料編考古１　平成17年、三重県

②：藤原秀樹「徳居窯跡群」『三重県史』資料編考古１　平成17年、三重県

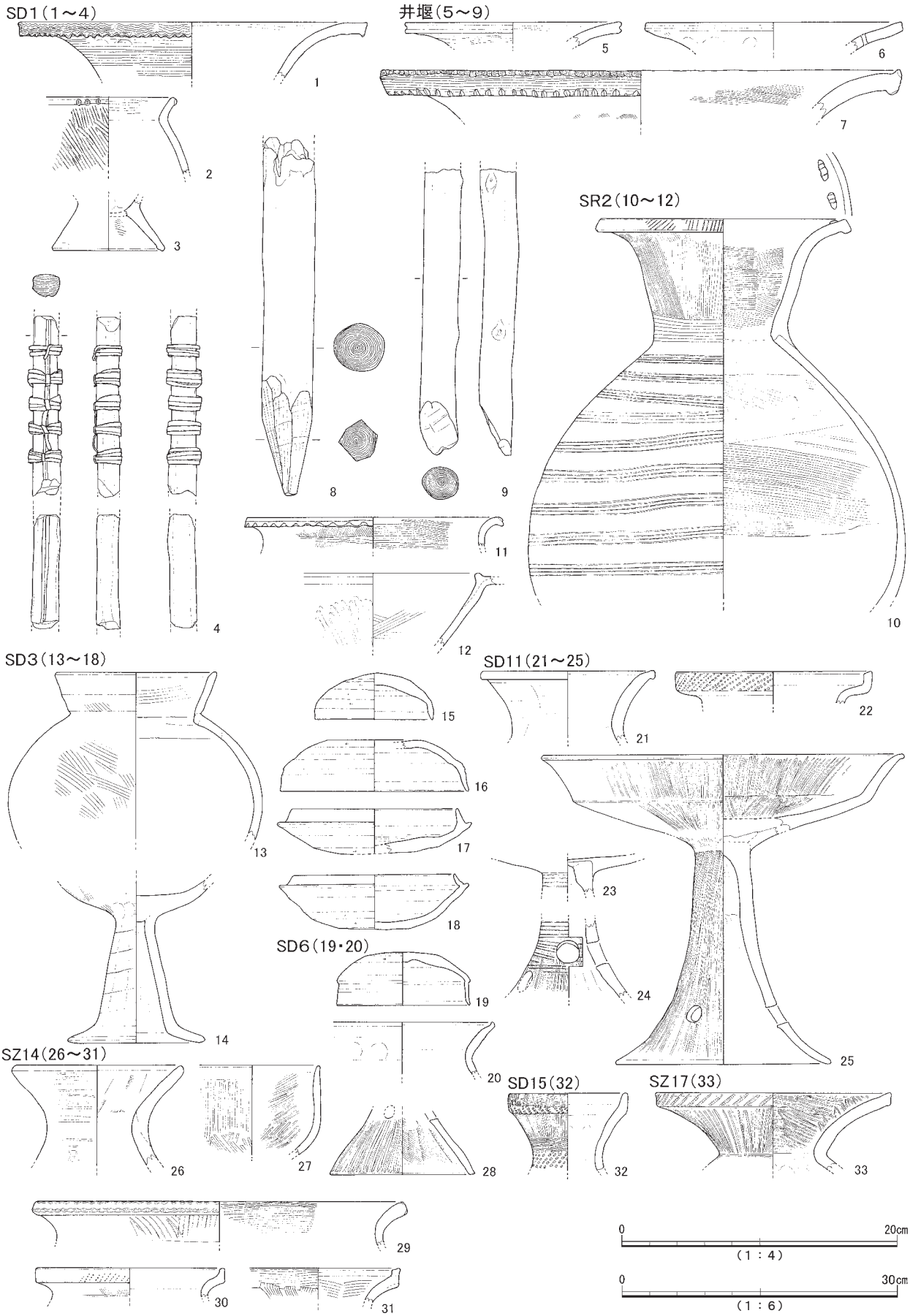
③：弥永貞三・谷岡武雄編『伊勢湾地域の古代条里制』昭和54年、東京堂出版

④：平成25年度に自然科学分析業務委託を実施（パリノ・サーヴェイ株式会社に委託）、分析結果より。

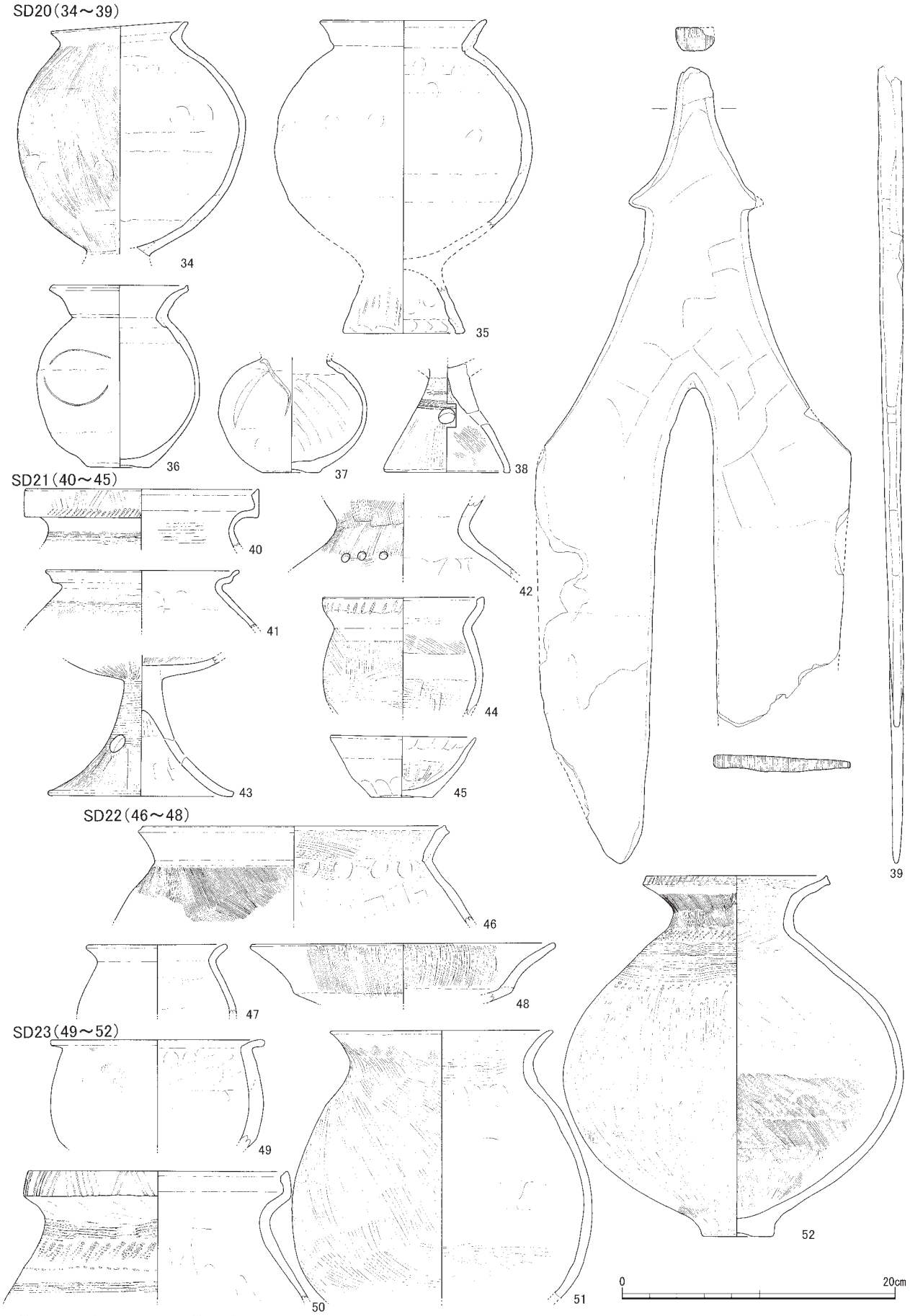
⑤：平成26年度に自然科学分析業務委託を実施（パリノ・サーヴェイ株式会社に委託）、分析結果より。

⑥：前掲注５

第６図　森ヶ坪遺跡（第２次）井堰平面図（1:80）



第７図　森ヶ坪遺跡（第２次）出土遺物実測図１（8・9は1:6、それ以外1:4）



第８図　森ヶ坪遺跡（第２次）出土遺物実測図２（1:4）

Ⅲ　小塚遺跡（第１次）

１　はじめに

小塚遺跡は鈴鹿市北玉垣町に所在し、稲生丘陵北東縁に位置する（第３図１）。現況は畑地・水田である。本事業に伴う分布調査により、古墳時代～中世の遺物が確認された。平成２４年度、対象範囲の一部について第１次調査を行った。

２　調査の概要・結果

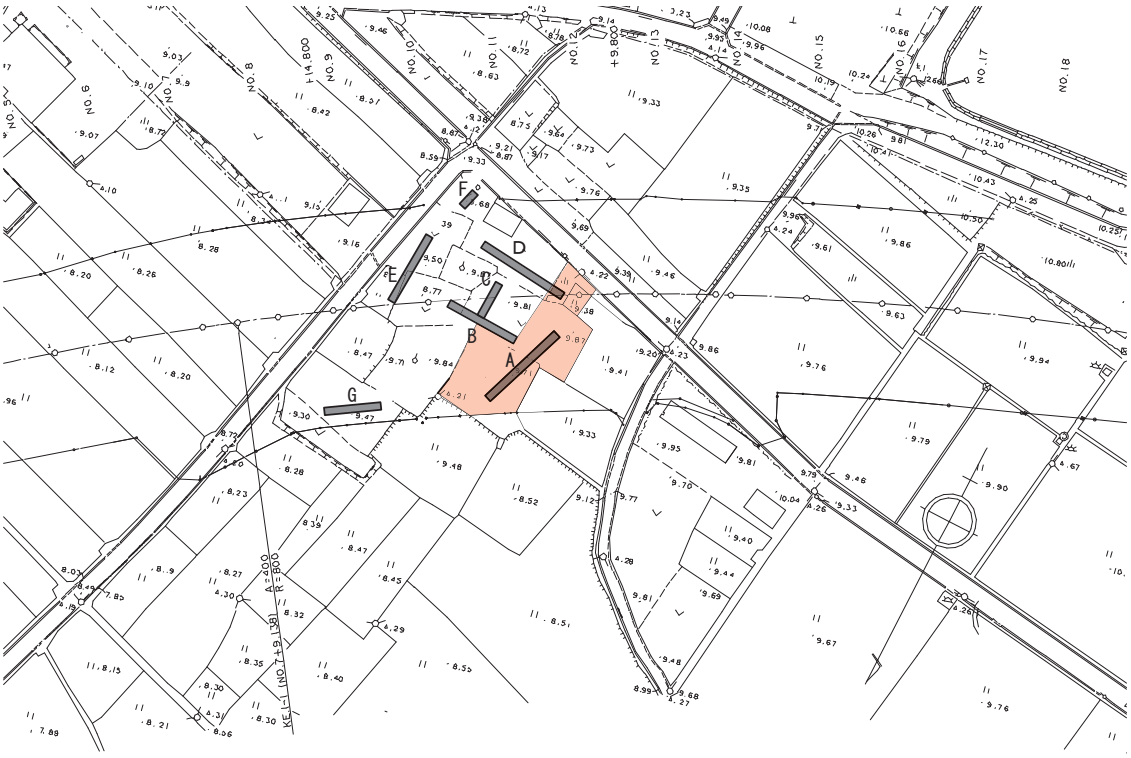
調査は遺構の広がりや密度、時期の確認を目的に、幅２ｍのトレンチを７箇所設けて行った（総延長１２０ｍ）。

調査区の標高は１０ｍ弱。基本層序は、第１層：表土、厚さ１０㎝前後、第２層：明赤褐色粘質土、厚さ１０㎝前後、第３層：明褐色粘質土（地山・検出面）で、地表から検出面までは２０数㎝である。第２層は地山の崩壊したものとみられる。また、調査地東部のＥ・Ｆトレンチでは、厚さ１ｍ程度の新しい造成土を確認した。

精査の結果、Ａトレンチで溝状と土坑状の、Ｄトレンチで溝状の遺構を検出した。遺物は土器破片数点にとどまった。遺構埋土はにぶい赤褐色でよく締まっていた。Ａ、Ｂ以外のトレンチでは遺構は検出されなかった。

以上の結果、調査範囲西部の約７００㎡について二次調査が必要と判断した。

写真14　Ａトレンチ（南から）



第９図　小塚遺跡（第１次）調査区位置図（1:2,000）

Ⅳ　石垣遺跡（第１次）

１　はじめに

石垣遺跡は、鈴鹿市末広町に所在し、稲生丘陵上に位置する（第３図２）。現況は水田及び畑地である。本事業に伴う分布調査で、古墳時代～中世にかけての遺物や、調査地南端に土塁状の高まりがあることが確認された。平成２４年度は対象範囲の一部について第１次調査を行った。

２　調査の概要・結果

調査は遺構の広がりや密度、時期の確認を目的に、幅２ｍのトレンチを９箇所設けて行った（総延長３３０ｍ）。

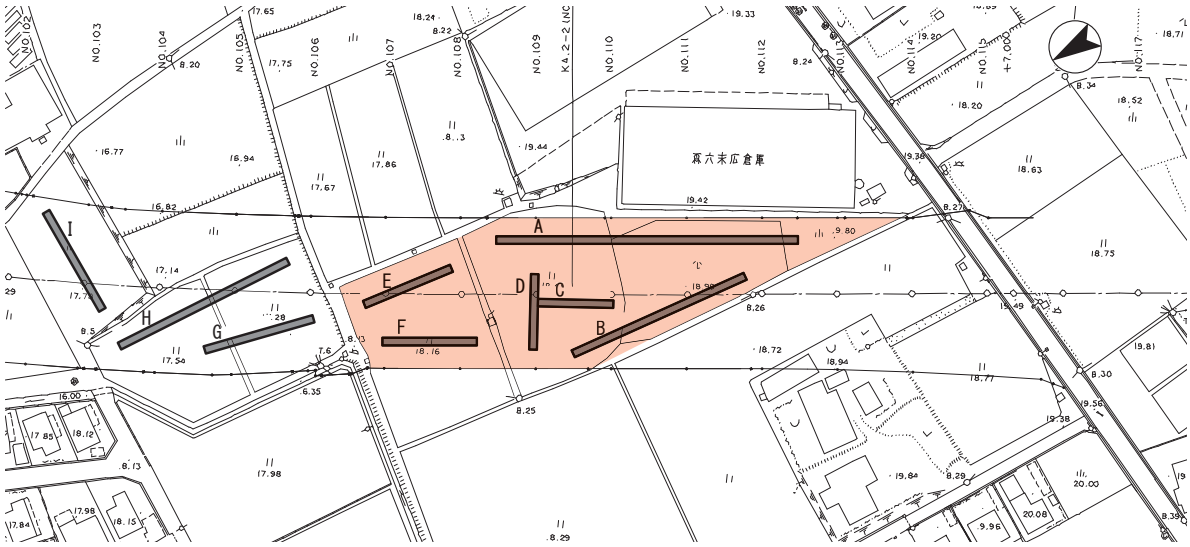
調査地の標高は南が最も高く１９．８ｍ。徐々に下がって北部の水田では１７．１４ｍとなる。基本層序は、南部（Ａ・Ｂトレンチ南半）の竹林、雑種地では１０㎝余の表土下に、２０㎝前後黒褐色土が堆積し、褐色粘質土の地山へと続いている。中央部（Ａ・Ｂトレンチ北半、Ｃ～Ｆトレンチ）は水田であったところで、１０㎝弱の耕作土下に黄褐色系粘質土が堆積していた。北部（Ｇ～Ｉトレンチ）も中央部同様、耕作土下に黄褐色系粘質土が堆積していた。場所によっては攪乱されており、１ｍ近い盛土がなされている箇所もあった。

調査の結果、Ａ～Ｄ、Ｆトレンチで溝、土坑、ピットなどを検出した。遺物はほとんど確認できなかったため、遺構の時期などは不明である。また、調査区南端部にあった土塁状遺構は、現代の廃棄物でできたものであることが確認された。

この調査結果から、ピット・土坑・溝の遺構が検出された調査地南部及び中央部、トレンチＡ～Ｆ周辺の３，３００㎡について、二次調査が必要と判断した。

写真15　Ａトレンチ（北から）

写真16　Ｆトレンチ（北から）



第10図　石垣遺跡（第１次）調査区位置図（1:2,000）

Ⅴ　森ヶ坪遺跡（第１次）

１　はじめに

森ヶ坪遺跡は鈴鹿市越知町、御薗町に所在し、中ノ川南岸の氾濫平野に立地する（第４図１１）。現況は水田である。

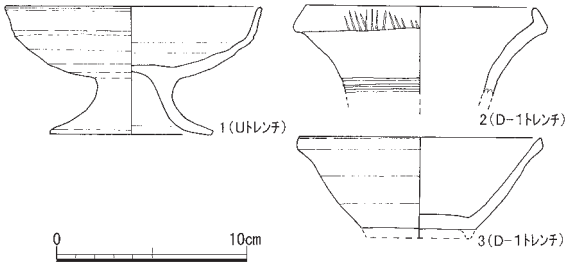
２　調査の概要・結果

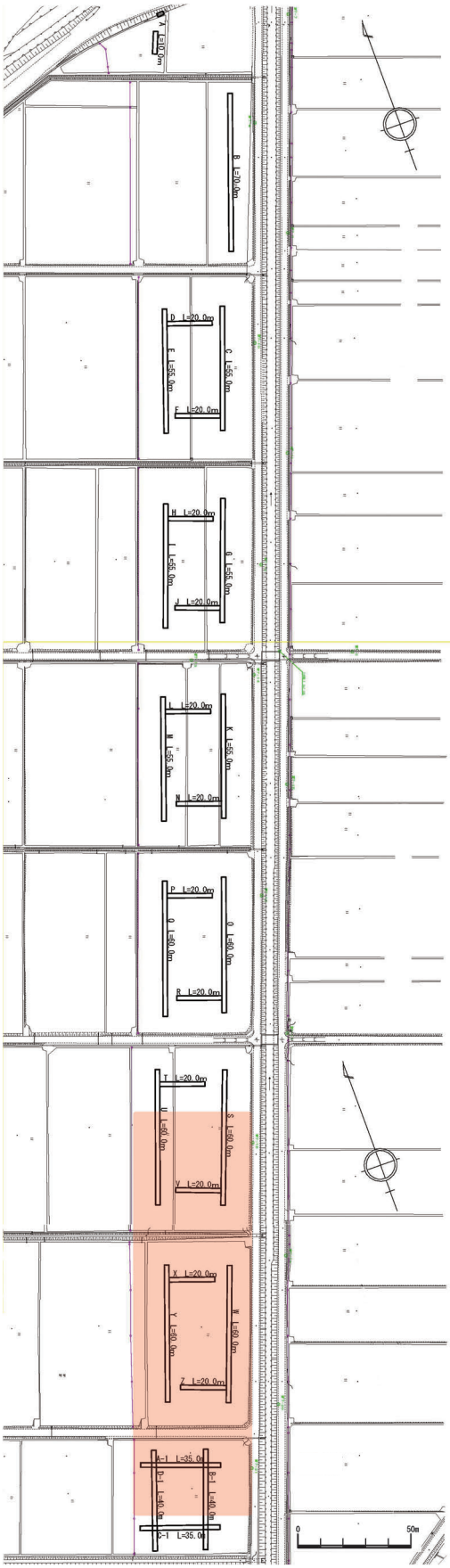
今回実施した一次調査では、幅２ｍのトレンチを３０箇所設定（Ａ～Ｚトレンチ、Ａ-1～Ｄ-1トレンチ）し、合計２，３２０㎡を調査した（第11図）。

基本層序は、上から表土、ほ場整備時の客土層（灰色粘質土）、地山層（緑灰色シルト～粘土）であるが、Ｓトレンチ以南ではほ場整備時の客土層と地山層間に黒色土及び灰色土を確認した。遺構は、遺跡南半部Ｓ、Ｕ、Ｖ、Ｗ、Ｂ－１、Ｄ－１トレンチから溝を検出した。遺物はＵトレンチで検出した溝から須恵器高杯（１）が出土したほか、各トレンチから土器片、陶器片、木杭などを確認した。

調査状況から、溝を確認した遺跡南半部８，１００㎡を二次調査対象範囲とした。

写真17　D-1トレンチ溝部分土層（西から）





第11図　森ヶ坪遺跡（第１次）出土遺物実測図（1:4）及び調査区平面図（1:3,000）

Ⅵ　東谷遺跡（第１次）

１　はじめに

東谷遺跡は鈴鹿市越知町に所在し、中ノ川南岸の氾濫平野につながる開析谷に立地する（第４図１２）。現況は水田であり、昭和５２年度に団体営ほ場整備事業が行われている。

２　調査の概要・結果

今回実施した第１次調査では、幅２ｍのトレンチを１３箇所設定（Ａ～Ｍトレンチ）し、合計６４０㎡を調査した（第12図）。

基本層序は、上から表土、客土層（灰色粘質土）、旧耕作土と考えられる黒色土、灰色土、地山層（緑灰色シルト～粘土）であった。丘陵に近接するＥ、Ｇ、Ｉ、Ｊ、Ｌトレンチで自然流路を確認したが、人為的な遺構は検出されなかった。遺物は各トレンチから土器片、陶器片が出土した。

図示できたものはＣトレンチ出土の弥生土器壷（１）、Ｄトレンチ出土の土師器小皿（２）、Ｅトレンチ出土の陶器小皿（３）である。

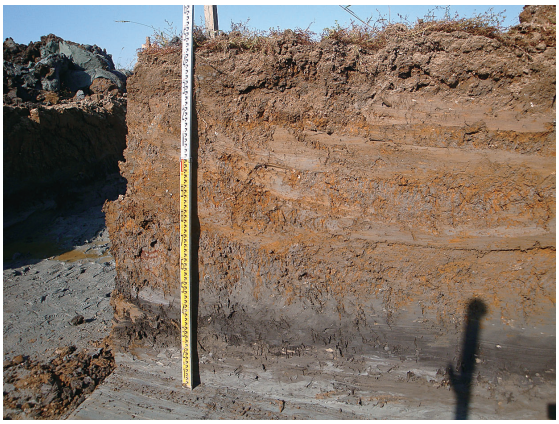
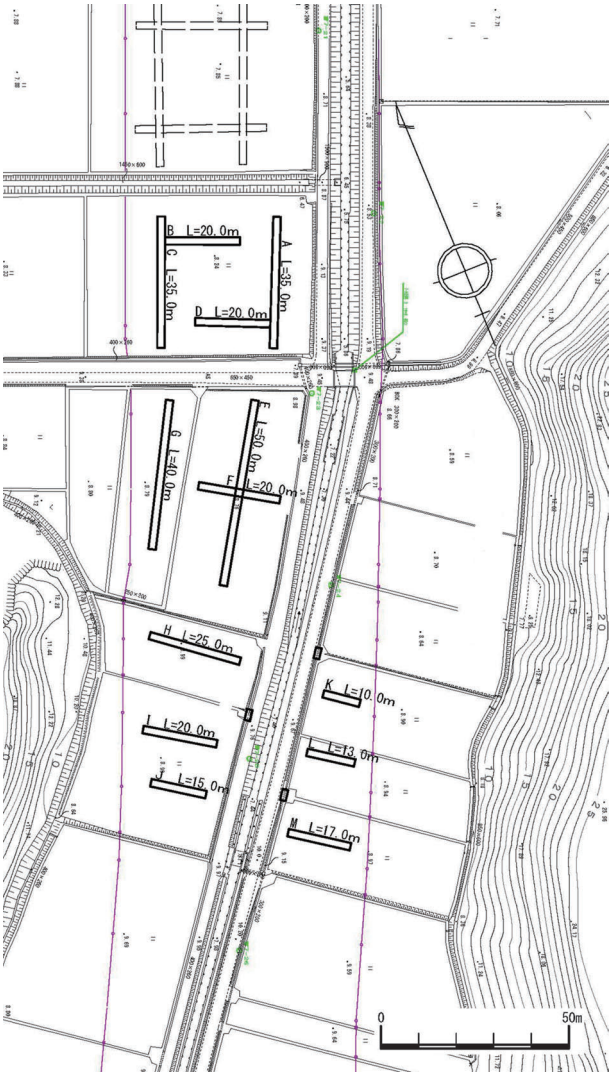
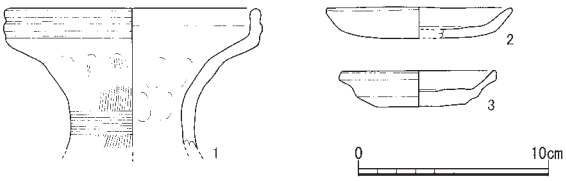


写真18　Ｂトレンチ土層（南から）

写真19　Ｅトレンチ（東から）





第12図　東谷遺跡（第１次）調査区平面図（1:2,000）及び出土遺物実測図（1:4）

Ⅶ　大釜南古墳（第１次）

１　はじめに

大釜南古墳は津市大字神戸の山中に位置する。当地より北西８００ｍに にんごう古墳群が、東１㎞には市バサマ古墳、元井池古墳が所在している。本事業に伴う分布調査により古墳状のマウンドが確認され、大釜南古墳と命名された。当初は１基であったが、立木伐採後に再度現地を観察したところ、３基のマウンドが見受けられたため、対象範囲を拡張した。

２　調査の概要・結果

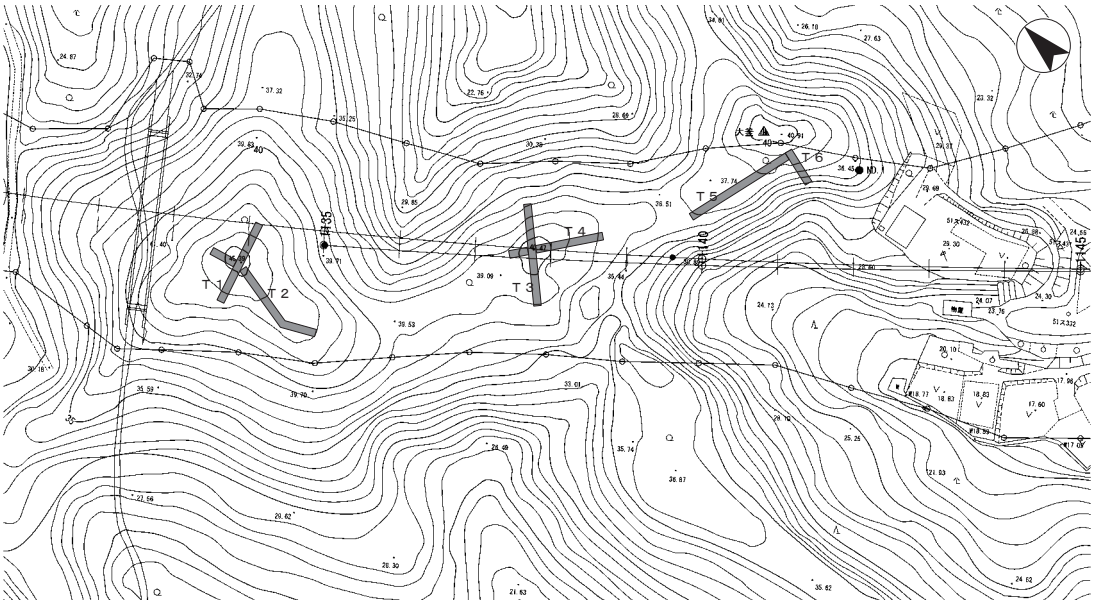
今回実施した第１次調査では、幅２ｍのトレンチを６箇所設定（Ｔ１～Ｔ６）し、合計２９４㎡を調査した（第13図）。

古墳が想定されたマウンドでは盛土や周溝などは確認されなかった。古墳状の地形や円形の高まりは自然地形と考えられる。

写真20　トレンチ３（北から）

写真21　トレンチ２（北から）

写真22　トレンチ５（東から）



第13図　大釜南古墳（第１次）調査区位置図（1:2,000）

報　告　書　抄　録

ふりがな	いっぱんこくどうにじゅうさんごうちゅうせいどうろまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいほうにじゅうご
書　　名	一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報25
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報
シリーズ番号	25
編 著 者 名	田中久生　　長谷川哲也　　原田恵理子
編 集 機 関	三重県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒515－0325　　三重県多気郡明和町竹川503　　TEL　0596-52-1732
発行年月日	2015（平成27）年２月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
こつかいせき 小塚遺跡	みえけんすずかしきたたまがきちょう 三重県鈴鹿市北玉垣町	207	1161	34° 51′ 52″	136° 35′ 45″	2012. 12. 7～ 2012. 12. 13	第１次調査 240	一般国道23号 中勢道路建設
いしがきいせき 石垣遺跡	みえけんすずかしすえひろちょう 三重県鈴鹿市末広町	207	1162	34° 51′ 40″	136° 33′ 55″	2012. 12. 17～ 2012. 12. 28	第１次調査 660	一般国道23号 中勢道路建設
もりがつぼいせき 森ヶ坪遺跡	みえけんすずかしみそのちょう・おうちちょう 三重館鈴鹿市御薗町・越知町	207	1167	34° 49′ 25″	136° 31′ 51″	2013. 5. 24～ 2014. 2. 13	第２次調査 6, 897	一般国道23号 中勢道路建設
						2012. 8. 20～ 2012. 10. 29	第１次調査 2, 320	
ひがしたにいせき 東谷遺跡	みえけんすずかしおうちちょう 三重県鈴鹿市越知町	207	940	34° 49′ 11″	136° 31′ 42″	2012. 8. 20～ 2012. 10. 29	第１次調査 640	一般国道23号 中勢道路建設
おおがまみなみこふん 大釜南古墳	みえけんつしおおあざかんべあざおおがま 三重県津市大字神戸字大釜	201	855	34° 42′ 2″	136° 28′ 28″	2013. 12. 20～ 2013. 12. 24	第１次調査 294	一般国道23号 中勢道路建設

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小塚遺跡	散布地	古墳、飛鳥、奈良、平安、中世	土坑、溝	土師器片、須恵器片、陶器片	
石垣遺跡	散布地	古墳、飛鳥、奈良、平安、中世	土坑、溝	磁器片	
森ヶ坪遺跡	散布地	縄文、弥生、古墳、飛鳥、中世	溝、旧河道、井泉、井堰、土坑	縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、木製品（建築部材、弓、農具、杭等）、石斧、植物遺体（ひょうたん、種子）、貝類	
東谷遺跡	散布地	鎌倉	なし	土師器片、須恵器片、山茶椀片	
大釜南古墳	古墳	古墳	なし	なし	

要約		
	小塚遺跡	稲生丘陵より続く台地の北辺に位置している。調査の結果、土坑や溝が検出された。遺物は、土師器片、須恵器片、陶器片が出土した。
	石垣遺跡	丘陵上に立地する。調査の結果、ピット、土坑、溝が検出された。遺物は、磁器片が出土した。
	森ヶ坪遺跡	中ノ川中流域の右岸の沖積地に立地する。調査区北側では、千本近い杭で構成された弥生時代中期とみられる井堰が確認された。その南側には、直径８ｍ、深さ２ｍに及ぶ大型の井泉が出土し、床面では埋没木を利用して湧水を集めていた。調査区南側では、弥生時代後期と古墳時代前期の溝が確認された。弥生時代後期の溝からは杭や木製農具、土師器甕等が出土した。
	東谷遺跡	中ノ川南岸で、南部丘陵地に隣接する水田に立地する。調査の結果、遺構は検出されなかった。遺物としては、土器片、陶器片が出土した。
	大釜南古墳	大釜南古墳及び伐採後表面観察で確認した古墳状の高まり３基を対象に調査を実施したところ、遺構・遺物は発見されなかった。

一般国道23号　中勢道路

埋蔵文化財発掘調査概報 25

２０１５（平成27）年　２月

編集・発行　　三重県埋蔵文化財センター
印刷　　光出版印刷株式会社

表紙写真：井堰　～森ヶ坪遺跡第２次調査より～（西から）